

上山市振興計画推進会議の検証結果概要について

1 会議概要

- (1) 開催日等：平成 30 年 7 月 6 日（金）、7 月 9 日（月） 大会議室
- (2) 参集者：上山市振興計画推進会議委員 11 名、副市長・事業説明担当課長
- (3) 協議内容： 第 7 次上山市振興計画・基本計画（計画期間：平成 28～31 年度）は運用開始から 2 年が経過し、平成 29 年度より基本計画の検証を実施した（89 施策 328 事業）。

また、上山市まち・ひと・しごと創生総合戦略（計画期間：平成 27～31 年度）は振興計画の重要な柱として位置付けていることから、平成 30 年度についても検証を実施した（131 事業）。

2 検証結果の主な内容

■第 7 次上山市振興計画

第 1 章 はぐくむ「笑顔いっぱいのもち」

1-1-2 子育てしやすい環境づくり

・待機児童が出ているので、余裕をもって用意しておくべき。市として、0 歳児に対する今後の対応の方向性を出していくべきである。

・「めんごりあ」は、ハード面で支障がないように対応願いたい。

・ダンスや音楽など、小学校中学年以上の世代が文化的に楽しめる場所の整備を求める。兄弟がすべて楽しめるようにソフト事業で対応できないか。「めんごりあ」利用者のニーズをとらえ、一日過ごせるようなプラスアルファの楽しみ方を提供する必要がある。

1-1-3 子育てに関する情報提供・相談体制の充実

・「ファミリー・サポート・センター」の存在を知らなかった。必要とする方に伝わらなければいけない。また、利用者の中には、利用していることを他の方に知られたくない方もいるので、周知の手法を考えてほしい。また、愛称があれば周知に繋がるのではないか。

・子育て情報について、必要な情報が求める人に届いていない。

・LINE より口コミのほうが伝わりやすい。

1-4-2 学校図書、教育機器等の充実

・ICT 機器を活用し、先生方の業務軽減を図っていくべき。個別指導によるデータの蓄積やタブレット等の ICT 機器の増設で教育の質を上げてほしい。

1-5-2 競技力の向上に向けた人材の養成やスポーツ環境の整備

・目標は高くてもよい。子どもたちが生涯にわたりスポーツを楽しんでもらうきっかけになればよい。

第 2 章 やすらぐ「元気であたたかいまち」

2-3-1 地域支援事業の充実

・認知症サポーター養成講座の機会が減ったと感じるので、増やすべきである。

2-5-1 地域で支え合う福祉の充実

- ・ボランティアのニーズをとらえることで、ボランティア団体の増加につながるのではないか。

2-6-1 高齢者の生きがいづくり

- ・「まじやれ」では、例えば高齢者が地域の歴史を中高生に教える機会などがあるのではないか。

2-6-2 高齢者の安全・安心な暮らしの確保

- ・安心見守りサービスについて、単身高齢者世帯の全体的な数字を把握し、活用を図ってほしい。

2-8-1 生活保護から自立する環境づくり

- ・自立世帯数について、状況を見ながら、目標値の見直しを図ってほしい。生活保護から抜けても生活は厳しい。

- ・生活保護から打開するための支援を手厚くするべきである。

2-8-2 生活保護に至る前の段階からの支援

- ・生活困窮者が増加しているため、分析をした上で対応策を練ってほしい。

第3章 にぎわう「魅力と活力あふれるまち」

3-1-2 農産物販売額の拡大

- ・一時的な高単価による目標達成に見える。
- ・かみのやまワインによる地域振興事業について、10年以上先の方向性をきちんと決めなければならない。今後の方向性を検討する時期にきている。
- ・ワインは広域連携ができるところや、個々のワイナリーが差別化できるところが強み。その強みを生かしていける施策展開が必要である。

3-1-3 有害鳥獣対策の推進

- ・ある程度、先を見据えた対策が必要である。
- ・住民に被害が及ぶ場合があるので、より実効的な取組をすべきである。

3-1-4 豊かな森林資源の活用

- ・県内において木質バイオマス施設や大型の製材所が多く存在しており、木質バイオマスや集成材への需要が高まっているので、今後の動向を注視すべきである。

3-2-1 中心商店街の活性化

- ・本屋など生活に密着した店舗の誘致が必要である。
- ・若い方が集まる場所を誘致できるよう取り組んでほしい。
- ・後継者がいないことが大きな問題である。Uターンや、外部からの人材を招くなど、後継者問題に対する行政の支援が必要である。
- ・駅前商店街は頑張っている。自助努力が重要である。危機感が弱い。
- ・駅前からの導線ができていない。「めんごりあ」の整備も終わり、駅周辺も含めて面としてにぎわうように考えなくてはならない。

3-2-2 経営の安定化の推進

- ・特徴ある店づくりの提案が必要である。

- ・旅館との連携を討議する機会が必要である。
- ・他市に比べると 20 代から 30 代の若手経営者が少ないので、創業支援と創業後の手厚い経営支援が重要である。

3-2-3 商業機能の充実及び多機能化

- ・全国的にみると、コワーキングスペースが新規創業に繋がっていない。コワーキングスペースのニーズをとらえることが必要であり、場所を設けるだけでなく工夫することが重要である。コワーキングスペースで何ができるのか、といった提供の仕方が重要である。

3-3-1 新たな産業拠点の形成と企業誘致

- ・誘致企業について業種の検討が必要。例えば、農産加工やレトルト工場など。他市と差別化できるような上山らしい産業拠点にすべきである。
- ・ニーズをとらえた企業誘致が必要である。

3-4-1 産業人材の育成・採用及び高齢者雇用の推進

- ・人材確保において市の目標値と実態がかけ離れている。

3-5-1 宿泊施設を活かした戦略的な観光振興

- ・観光客誘客に関する積極性がない。娯楽がない。台湾以外にも対象を広げてほしい。東南アジアなども対象候補となる。
- ・例えば欧米人が望むように、旅館を個室対応にするなど、対象や手法を工夫すべき。
- ・宿泊を伴うイベントの仕組み作りが必要である。
- ・駅のトイレが壊れているので改修してほしい。

3-5-2 上山型温泉クアオルト事業等の地域資源を活用した観光消費の拡大

- ・食のツーリズム、ヘルスツーリズムなどが良いのではないか。
- ・上山だけでなく、周辺他市町村と連携した旅行商品の提供が必要である。

3-5-3 外国人旅行客受入れ（インバウンド）の推進

- ・周辺観光資源との連携をし、宿泊を伴うような観光に重点を置くべきである。
- ・外国人は、パンフレットよりスマートフォン等を見て旅行をしている。検索で上位に出てくるような工夫が必要である。
- ・海外サイトからも旅館を予約しやすい環境づくりが重要である。
- ・都市部で発行しているフリーペーパーの記者から四季ごとの取材をしてもらうことが必要である。
- ・他市町村と差別化をした、上山らしい食事の提供が必要である。
- ・旅館で Wi-Fi を使えるようにしてほしい。

第4章 うるおう「快適に暮らせるまち」

4-1-1 土地利用の適切な規制

- ・引き続き、市報掲載にて広報活動に取り組んでほしい。

4-1-2 地籍調査事業の推進

- ・着実に実施してほしい。

4-2-1 魅力的な景観づくりの推進

- ・田園風景を含めた景観についての目標があればよい。

- ・景観づくりを推進していくには空き店舗をどのようにしていくかを工夫していただきたい。

- ・空き店舗の外観だけでも工夫してほしい。
- ・若い人を呼び込むため、若い人目線の景観づくりを検討してほしい。

4-3-1 環境問題への対応と自然環境の保護

- ・環境に関する苦情についてコミュニティによる解決が難しくなっている状況を踏まえ、市の対策を強化することも必要である。

4-4-1 環境負荷削減のための啓発活動と事業の推進

- ・木質バイオマス発電の安定的な稼働をするために材料供給が欠かせないので市の対策が必要である。

- ・省エネにつながるような取組を継続して実施してほしい。

4-5-1 3Rによるリサイクルの推進

- ・不満の50%について、内容を把握する必要がある。
- ・ごみ処理の不満に対する市民の不満内容を把握するアンケートの取り方をしてほしい。
- ・民間の資源化率も含めた目標値となるよう改善する必要がある。

4-7-1 誰もが利用しやすい公共交通の整備

- ・ある一定の年齢になった際に免許返納ができるような対応が必要である。
- ・観光客向けの公共交通の整備が必要である。

4-13-1 ICTを活用した行政サービスの検討

- ・若者には不可欠であり、目標値をもっと上げてほしい。
- ・使い方の仕組みを作り普及していくことが必要である。

第5章 つながる「みんなで創る住みよいまち」

5-1-1 多様な担い手が参画するまちづくりの推進

- ・基本構想の市民浸透度について、アンケートの取り方、質問の問い方について改善をした方がよい。理解されている方が多いと感じている。

5-1-2 地域の魅力醸成

- ・行政がやり過ぎてはいけない。
- ・誰かが旗をふればそれに従うといった人が多い。
- ・自主的に地域の魅力を発信する若い人が少ないので、行政がきっかけを与える必要がある。

- ・新たな取組をするにはかなりのエネルギーが必要であるので、核となる人材の育成が必要である。

- ・若い方の人材育成が必要である。
- ・地域おこし協力隊の制度自体を理解している人が少なく、最終的に上山市がどのような方向に向かっているかわからない。地域おこし協力隊の業務が内部の仕事が多いので、認知に至らないのではないかと。

5-2-1 地域自治活動の育成

- ・これだけ活動を活発にしているのであれば、新規計画を策定する必要性はあるのか。

- ・地区活動について整理する必要がある。

5-3-1 人権が尊重される社会の実現

- ・項目として取り上げる必要はないのではないか。

5-4-1 市民交流の拡充

- ・姉妹都市との今後の関わり方について再度検討し見直す時期ではないか。
- ・開催回数や、学生の繁忙期を避けるなど開催時期の調整を行う必要がある。
- ・学生が国際交流するきっかけ・目的を定めた方が良い。
- ・訪独する学生の確保が難しい現状である。

5-4-2 クアオルト事業を通じた交流の推進

- ・経済界に影響を与えるような取組をしてほしい。お金を落としてもらえような仕組みづくりが重要である。

5-5-1 移住受け入れ環境の整備

- ・移住相談をしないで移住している人もいる。
- ・相談の5%が移住に結び付くような目標値であるが、目標値が課題なのかツアー等に参加した方の満足度が低いのか検討する必要があるのではないか。
- ・真冬を体験するツアーなど、生活の実質に応じたツアーをしても良いのではないか。
- ・住居整備と子育て環境の広報が必要ではないか。
- ・首都圏だけでなく、山形県内から移住者をターゲットにすべき。
- ・ランドバンク事業と連携して進めていった方が効率的である。

第6章 すすめる「施策実現のための行政運営」

6-1-1 市民が行政情報を知りやすく行政に参加しやすい環境の充実

- ・市報は、イベントの開催通知や子供の予防接種等の情報しか見ない。関心のある特定の情報しか見ない。

- ・情報とは何かを考え、より見やすくする工夫が必要。
- ・市報は、全カラー刷りにしたり文字を大きくした方が見やすい。また、抜き取りや張り出しができるよう工夫してほしい。

6-1-2 シティプロモーションの推進

- ・尾花沢市であれば「銀山温泉」、東根市なら「さくらんぼ」等の強みが必要。また、1自治体だけのPRでは限界がある。

- ・観光施設はあるが、他に何もないため物寂しい。駅前が活気良くなるような施策があると良い。

- ・蔵王坊平アスリートヴィレッジは全国から有名アスリートが集まっているが、認知度的にはまだ低い。何かきっかけがあれば認知度が上がるのではないか。周知のため今後宣伝の仕方を工夫すべき。市民のための施設というアピールをしてほしい。

- ・SNSでPRしていく必要がある。
- ・ターゲットを設定するには戦略的な取組が必要である。

6-3-1 安定的な財政運営の推進

- ・市税の収納率を上げていく必要がある。

その他

- ・市民自らの責務を認識してもらう必要がある。今回は、行政に対する検証だが、市民が担うことが少なくない。市から積極的に働きかけをする必要がある。
- ・施策が偏っている。中学生から大学生を対象にした施策が少ない。
- ・商業・観光において「上山らしさ」を出し差別化することが必要である。
- ・市民が再度魅力・役割を理解し活性化してほしい。
- ・市民に伝える手法として、各種団体とうまく連携していくことが重要である。
- ・一部目標値については、現状を踏まえ、変更することを検討すべき。また、調査方法についても検討すべきである。

■上山市まち・ひと・しごと創生総合戦略

- 1 かみのやま「産んでよし・育ててよし」プロジェクト
 - ・「子育て環境がいい」というイメージ戦略が必要である。
 - ・「学校に行くのが楽しい」と思う児童・生徒の割合が下がっているのは問題である。かみのやま「産んでよし・育ててよし」プロジェクトをより充実させてほしい。小児科が少ないのは問題である。
 - ・「めんごりあ」について、現在は賑わっていると思うが、子供は飽き易い。目標値達成のための戦略を早期に考える必要がある。
- 2 かみのやま「働いてよし」プロジェクト
 - ・高校生が上山市で就職していない理由について認識が必要である。
- 3 かみのやま「来てよし」プロジェクト
 - ・転出者を留めるよりも、転入者に対する施策に重きを置いたほうがいいと思う。
 - ・純移動者数に改善が見られるので、まずは「来てよし」プロジェクトの指標をしっかりと達成させるよう、戦略的に進めていってほしい。
- 4 かみのやま「住んでよし」プロジェクト
 - ・特になし